

# グローバル化する世界で生きる私たち

---

京都 京都市立神川中学校 3年

私は中学2年生の11月に中国から日本にきました。

はじめは日本語が全くわかりませんでした。日本の中学校に入ると、一週間に四時間日本語の先生が来てくれました。個別に日本語を教えてもらったり、クラスの授業にいっしょに出て中国語で説明してもらったりしました。私も学校の授業を理解したくて、いろいろな方法を試しました。

最初は、日本語の先生と学習したことを家で何回も復習しました。学校ではできるだけ自分から友達に話しかけました。友達はいろいろな言葉を教えてくれました。友達と芸能人のことなどを話すのに夢中になりました。時間があるときは日本のアニメも見ました。アニメには生活でよく使う言葉が何回も出てくるので日本語学習にとってもおすすめです。

学校では、たくさんの先生方がすれ違うたびにいつも声をかけてくださいます。温かい気持ちが伝わって、みんなが私のことを嫌いじゃないということも分かり、自信になります。

教科で使う日本語は、会話よりずっと難しいです。特に、理科はもともと苦手だったので、インターネットで中国語の動画を探して予習してから日本の教科書やプリントを見て、言葉を覚えました。

社会科は今でも難しいです。中国の内容と全く違うからです。社会科の先生は私のために特別なプリントを作ってくれたり、放課後に補習してくれたりしました。3年生になってからは、「公民」も始まりました。その中で「グローバル化」という言葉を学習し、私はそれについて深く考えるようになりました。

ここでは、「グローバル化」について私が日本での生活や学習を通して考えたことを述べたいと思います。

まず、「日本社会のグローバル化」についてです。身近な生活の中で、例えば日本でも中国の We Chat Pay というスマホで決済するアプリが使えます。学校では、中国ができる先生が私に日本語を教えてくれます。また私の家の近所には中国人と日本人が国際結婚したご夫婦が幸せな家族を作っています。どれもグローバル化の表れです。また、グローバル化が進むためには輸送手段も大切

だと思います。人・もの・お金・情報が国境をこえて、自由に行き交い、世界が一体化しているからです。今は外国から来ても、日本に住むのはそれほど難しくなくて、便利だと感じています。

次に、「貿易と国際分業によって世界がつながっている」ということです。グローバル化は世界規模の競争と分業を加速させています。貿易競争があるからこそ、経済の進歩があると思います。一方で、世界のどこかで問題が発生した場合、その国だけで対応することはできません。だから、みんなで協力解決することが必要です。こうした競争と協力によって、国と国の関係がよりよくなると思います。

最後に、「多文化共生社会」についてです。それぞれの国や地域の特色や文化には違いがあります。違いを互いに尊重しなければなりません。自国の文化を宣伝するだけでなく他国の文化を学ぶことで多文化共生社会が実現します。

今、コロナで世界中が大変です。しかし、三密を避けたり、手をよく洗ったり、消毒をしたりして、よりよい解決策を考え、思いやり、協力しています。

私は、グローバル化する今の世界が好きです。様々な世界の文化について学べば学ぶほど、他の国に行くときにも、自分が無力だとは感じなくなります。身の回りの外国の物や情報からもっと多様な文化を知り、国際言語の英語も更に勉強して、グローバル社会を築く一人になりたいと思います。